

第8回新市建設計画策定小委員会（議事概要）

日 時 平成14年11月15日（金）PM1：30～PM3：24

場 所 アグリセンター大宮

出席者数 19人（欠席1人）

傍聴者数 3人

主な議題

（1）協議第1号 新市建設計画について

（2）次回の議題について

（3）次回の小委員会の日程等

議事経緯

委員長あいさつ

会議の成立確認

議題

（1）協議第1号 新市建設計画について・・・**継続協議**

新市建設計画の具体化に向けた小委員会での協議・自由討論より

総務・企画・議会小委員会委員長報告

- ・学校教育の充実方策の検討（学力向上対策等）
- ・常備消防の地域に配慮した体制整備

住民・福祉・教育小委員会委員長報告

- ・幼保（幼稚園と保育園）一元化の検討
- ・豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」の充実

建設・産業小委員会委員長報告

- ・地場産業支援のためのミニ工業団地の造成
- ・若者支援プログラムの創設
- ・地場産業の開発・販売ルートの検討

主な意見

委員 14のプロジェクトの中で、「広域情報ネットワーク構想の実現」については、行政情報を含めた色々な情報が子供から老人まで伝わることは非常に大事である。しかしCATVやFTTHの違いについては住民がわかっていないのではないかと。住民の理解を得る中で、本当にやるのかどうか論議が必要。丹後を日本でも先進的な地域にしたらどうか。

- 委員長 各家庭にどのような情報が必要かなど、まだまだ検討がいると考える。
- 委員 合併すると京都市に次ぐ面積となる丹後では、電子自治体の確立は必要。また村役場を復活させ、そこにボランティアなどを置き配布物を配るなど、役所が住民の近くに行くという視点を取り入れることが大事である。小さな本庁、大きな支所というのが、不便、住民サービス、格差という不安を取り除くものになると考える。また住民意識調査の結果には3つの願いがあり、それは新市建設計画の3つの基本理念と合致していると思う。例えば、一つは豊かな自然を活かす、二つは健康・福祉・医療、三つ目は賑わいのある町を作り出すなど知恵を出して行かねばならない。
- 委員 丹後には大きな港はないが、海に向かった視点、環日本海経済圏で、プロジェクトに何かあってもいいと考える。
- 委員 例えば丹後にある温泉で「丹後七姫温泉めぐり」と名称を付け、7つ回るとご利益があるというように、町の垣根を越えたものを考えたらどうか。また、観光資源を活かすため、6町の玄関となる大宮町、久美浜町に情報拠点を置き、各町をネットワークで結ぶシステムづくりを考えたらどうか。
- 委員 地域での大きな課題は雇用の場所の確保である。大宮町では企業誘致のエコクリエイティブパーク構想があり、現在の経済情勢では実現は難しそうだが、是非とも実現してほしい。
- 町長 エコクリエイティブパークの研究会には多くの企業に参加していただいているが、特に島津製作所にはここに入ってもらおうと打診しており、実現すればイメージアップにもなる。峰山町では、丹後の発展していく企業を育成援助する観点からミニ工業団地として造成している。またビジネスパートナーということで、京阪神などから40社ほど工場見学などに来ていただいている。久美浜町でも工業団地については取り組んでいる。
- 委員 総合福祉センターの視察に行ってきたが、そこにはグループホームなど6つの施設が入っている。合併してこういった施設を作る場合、旧町単位に作るのではなく6町で一つの大きな福祉センターとすることが大事と思った。
- 委員 丹後では個人の方の営業努力で観光産業が大きくなってきたと考えるが、各町との連携がなく、狭い範囲で丹後の観光を考えていたのではないか。またスイス村等各町の施設の運営を考え、観光客にいかに見ていただき利用していただくかということを考えるなど、合併を機に視点を変えたおもてなしが必要と考える。
- 委員 観光は国の光を見ると中国では言われているが、6町場合は人情・伝統・地元の産業などいぶし銀のような観光を育てていきたい。各地域ごとの小さな取り組みをネットワークで売っていくなど、もちよりの観光ができればよい。
- 委員 合併により地域が寂れるといった不安が多いが、それを払拭するには地域の活性化が必要。6町が伸びていくためには観光なしには考えられない。
- 委員 情報で遅れをとれば環境・産業も立ち行かず、情報は一番大事なことであり一刻も早い整備が必要。家庭と本庁或いは支所が結ばれば、寂れるといった不安が薄れると考える。
- 委員 支所のあり方について、住民も非常に興味を持っている。現役場の実際の活用に

ついて住民に知らせるべき。管理部門がなくなり職員数も半分になるのであれば、庁舎の半分くらいが空くことになり、ここを社会福祉協議会や観光協会など各種団体の事務所とし、ネットワークづくりをするなど庁舎の活用を考えてほしい。また、各町役場は「支所」ということではなく「市町振興センター」とか「市町総合行政センター」という名称にしてほしい。

委員 観光は丹後にとってひとつの大きな目玉となるだろう。しかし、親として子供を丹後に残せるかという働き場、産業がない。また、丹後には研究施設のような高いレベルのものがなく、学校にしても高いレベルのものがなく、すべて外に求めなければならない。丹後には、学校で言えば大学であるとか研究室などの高いレベルの拠点が必要。丹後出身で企業等のトップになっている人は多いが、そういった優秀な人材を流出させずに丹後の中で育てられないか。

委員 今度 11 月 25 日に、京都工芸繊維大学の丹後サテライトという機関が織物機械金属振興センター内に設置され、繊維・金属のみならず地域の相談事を大学あげて対応してくれます。観光と企業誘致の関係では、行政が引っ張るのではなく、商工会、観光協会など自主的団体が連合体を作るなど、それぞれ 6 町での連携が必要と考える。

町長 大宮町は、今まで中学校・小学校を統合して学校経費を削減し、生徒一人当たりの教育費については丹後でも一番高くなっていると思うので、6 町でも学校統合をやり子供にお金をかけるべきである。また、丹後に私学が設立されれば、教育にも活力が出てくると考える。

委員 新市の教育の中味について、教育委員会の方から建設計画みたいなものを出してほしい。市になれば教育が変わったと言われるよう、6 町らしさを出してほしい。それには、学力をつけるために土日の休み、夏休みなどに子供を預かるといったことをやってほしい。東京都品川区は、交通の便がよいが、親に小中学校の選択の自由が与えられているので、学校はピーアールなどして努力するといった私学の発想というものが取り入れられている。

委員 合併特例債で市道はできるが、府道、国道については要望どおりに進まないと考える。丹後町の過疎代行のように、6 町の合併特例債を使い京都府が事業を進めることはできないか。大宮・間人線、木津・久美浜線、久美浜湾周辺道路など、合併により早急に整備していただきたい。

事務局 6 町が合併すれば、京都府も 6 町の合併特例債約 4 0 0 億円の 2 分の 1 を支援枠として受けられるので財源は十分あり、現在の 6 町の要望事項を進めていきたい。

委員 新市になるのをきっかけとして、高規格道路を第 1 順位として臨んでいただきたい。

委員 久美浜では役場庁舎も木造で、多勢の人に入ってもらおう施設がない。合併後は 5 0 0 人規模の集会施設と総合的な庁舎が建設してほしい。

委員 町長会のほうで、改修予定道路、各町の連絡道路など法線を描いて出していただきたい。

(2) 次回の議題について

新市建設計画について

(3) 次回の小委員会の日程等

第9回新市建設計画策定小委員会

日程 平成14年12月17日(火) 午後2時30分

場所 あみの図書館

文責 峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町合併協議会事務局
(速報のため、事後修正の可能性あり)